



集落ぐるみで取り組む 鳥獣害対策

イノシシ・シカ・サル・カラス・ヌートリア・アライグマ編
～農作物を被害から守る基礎知識～

目次

集落ぐるみの鳥獣害対策はどうすすめる？…	2
近づけない エサ場にしない……………	3
イノシシの生態と対策……………	4
ニホンジカの生態と対策……………	8
ニホンザルの生態と対策……………	11
カラスの生態と対策……………	14
ヌートリアの生態と対策……………	15
アライグマの生態と対策……………	16
ここで見分けよう！ 夜行性4獣種……	17
有害鳥獣を捕獲する……………	18
お問い合わせ先……………	20



集落ぐるみの鳥獣害対策はどうすすめる？

鳥獣被害が増えるのは、被害を増やすような状況が集落内に放置されていたり、当事者として自覚ある取組になっていない面があるから。まずは、集落の現状をみんなで確認することからはじめよう。

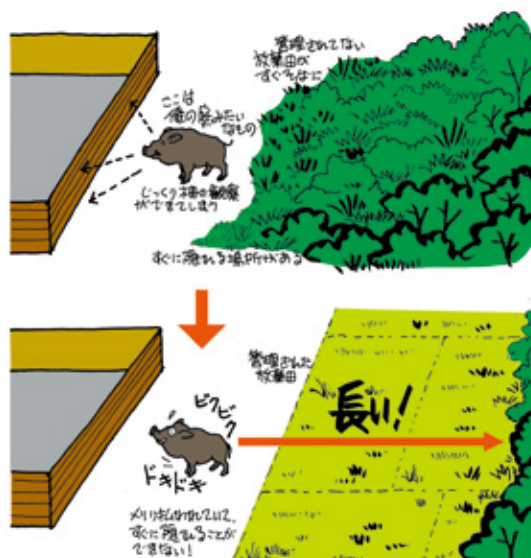
1 みんなで勉強！

野生鳥獣の生態や習性を知り、何が餌付けになるのか集落のみんなが理解することが重要。普段の行動が餌付けになっていることに気づく必要がある。そのうえで、自分たちで何ができるのか考える。女性・高齢者も、地域を守るために、積極的に参加しよう。



2 守れる圃場、 守れる集落に環境改善！

エサ場としての価値が低くなるように、田畑や家の周りの環境を改善する。田畑の周りの藪や、家のすぐ後ろまでびっしりと生えている竹林、収穫しなくなった庭の果実などは野生鳥獣のエサになるだけでなく、潜み場所を与えることになる。



3 柵で囲い、「追い払い」を！

電気柵等で圃場を囲うことは有効な対策だが、集落内のエサのうち、柵内のものだけを手出しにくくする手段にすぎない。

野生鳥獣は周りにエサがあれば、電気柵の外の作物を狙う傾向がある。効果をあげるために、柵の周りにエサがないか確認したり、草刈りをしたりして、メンテナンスをしっかり行おう。

また、追い払いは集落のみんなで日常的に行うこと。車でしつこく追いかける、石ころ、木切れを投げつける、大声で威嚇するだけでも効果がある。「人間は怖いぞ」と学習させることが重要。

4 最後は駆除や大規模柵の設置！

①～③までを実施しても被害が収まらなければ、有害鳥獣駆除班等による駆除（捕獲）や大規模柵の設置を行う。

※ 野生鳥獣は原則として捕獲が禁止されている。捕獲する場合には県知事の許可が必要。ただし、イノシシ、ニホンジカなど主な有害鳥獣については、県知事から市町村長へ有害捕獲の許可権限が委譲されている。



近づけない エサ場にしない

農作物を守るには、被害の始まりを見逃さず、集落や田畑に近づかせないのが一番。すでに被害が出ている場合は、エサ場としての魅力を下げること。集落内を点検し、みんなで野生鳥獣にとって魅力のない場所にする。

集落に近づけない

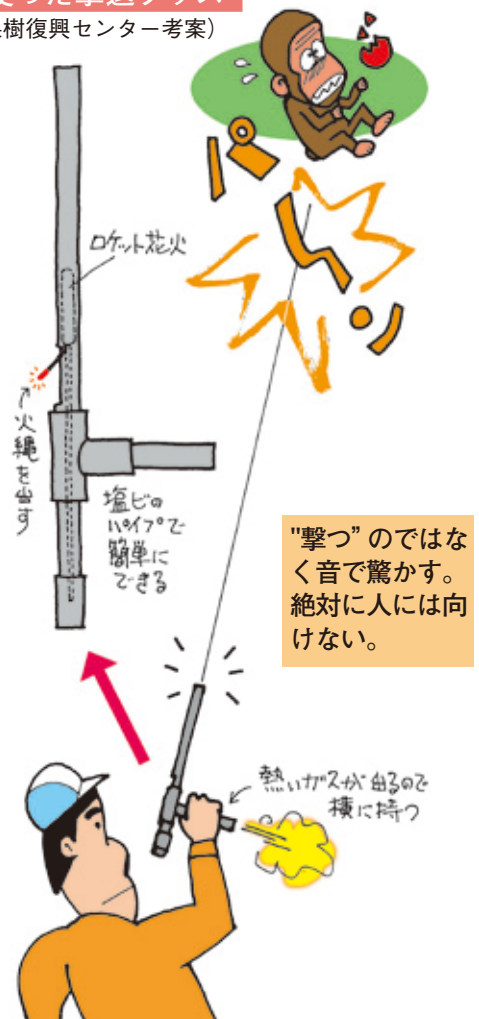
- 休耕地や耕作放棄地は格好の隠れ場所になったり、田畑への侵入口になるので、草刈りなど適正な管理を行う。
- 警戒心を持たせるため、散歩や田畑の見回りはできるだけ山際の道を通り、「けもの道」を見つけたら歩いてみる。
- 山際の草木の伐採や枝払いをして見通しを良くし、出て来にくく、隠れにくい環境をつくる。
- 集落や田畑をエサ場だと覚えさせないために、農作物の生育期や収穫期だけでなく、年中追い払う。
- 女性・高齢者も、出沒当初から追い払いに参加しないと、逃げない習慣がついてしまうので、サルなどを見つけたら猟犬や花火などを使って、みんなで追い払う。(右図)



人間は怖い！人里は危険だ！と学習させる

花火を使った撃退グッズ

(奈良県果樹復興センター考案)



集落や田畑をエサ場にしない

- 収穫しない農作物を畑に放置しない。被害を受けたり、畑の周辺で野生化した野菜や果樹も取り除く。
- イチゴやトマトは害獣から見えない側に果実が成るように植え付ける。
- 野生鳥獣が好まない農作物で守りたい農作物を囲うように植えつける「嫌がらせ」も効果がある。
- 野生鳥獣が出沒したら、屋外での農作物の調製保管をやめる。
- 落穂や2番穂(ヒコバエ)もエサになるので、稲刈りの終わった田は早く耕す。
- 生ゴミや野菜くずを田畑や山際に捨てない。捨てている場合は、すぐに回収する。
- 無人直売所では農作物が盗られないように工夫する。
- お墓のお供えは必ず持ち帰る。
- キャンプ場などの施設を含め、ゴミ出し規則を徹底する。
- 地域住民以外の人にも餌づけしないよう要請する。

大きな音がするので近所への事前の説明も忘れずに



イノシシの生態と特徴

イノシシは十二支（干支）のひとつで私たちにとってなじみのある動物だが、意外とその生態は知られていない。習性や行動に対する誤解から、効果のあまり期待できない対策を施して失敗している例も少なくない。被害を防止するためには、まず相手（＝イノシシ）のことを正確に知り、ほ場周辺のフィールドサイン（生活痕跡）を見逃さないこと。

イノシシ被害の危険信号!! フィールドサイン



足跡
4本指だが、前の2本が残りやすい



糞
粒状のものがひとつかたまりに



ヌタ場
転がって体表をこすりつけた跡

生態

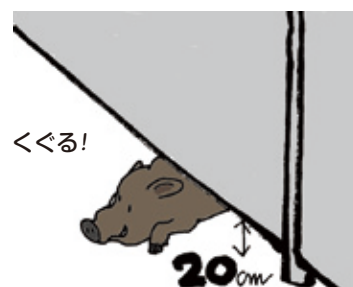
- 昼夜を問わず、エサを求めて活動する。
- 味が濃厚で甘みの強いものが大好物。イモや根茎、タケノコ、昆虫の幼虫やミミズなどなんでも食べる雑食性。
- 行動範囲は2～3km²で、時期により広がりを見せる。定着と移動を繰り返す。
- メスはコドモや姉妹と群れをつくる。オスは単独生活をするが、交尾期にメスの群れに入る。縄張り性は低い。
- 交尾期は年1回で12～2月頃、出産期は4～6月頃。毎年2～7頭と多産する。野生での寿命は10歳前後。

特徴

- “猪突猛進”はパニックになって逆上した時の姿。本来警戒心が強く、臆病で注意深く、あまり人前に姿を現さない。反面いったん慣れると大胆不敵にもなる。
- 主に通り慣れた「けもの道」を移動する。
- 鼻は敏感で、周囲の臭いや感触をさぐる際に使われる一方、70kgの石を動かすほど力強く、地面を掘ることもできる。
- 跳躍力に優れ、助走なしなら1m、よじ登ることができれば2mの高さを乗り越える。また、20cmのすき間をくぐりぬける柔軟さもある。
- 体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくい。
- 人の動きを観察し、真似をする賢さがある。学習能力も高く、覚えが早い。一度覚えると忘れない記憶力も持つ。

被害状況

- 最大の被害は根菜類と乳熟期以降の水稻。水稻では穂の食害のほか、踏み荒らしとヌタウチによる倒伏も。



豪快さと柔軟さをあわせ持つ

イノシシの身体能力

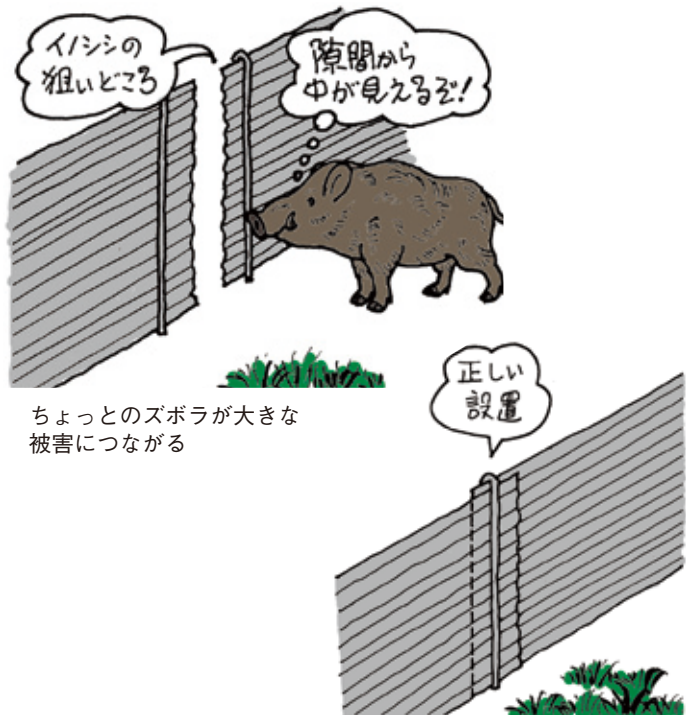
イノシシを侵入させない①

物理的・心理的にイノシシの侵入を防止するさまざまな資材がある。各資材の特徴を考慮して選択し、現場にあわせて正しく使用する。

防護柵は川や道路など、一見イノシシが入ってきそうな面でなくても全体を囲うこと。

トタン板

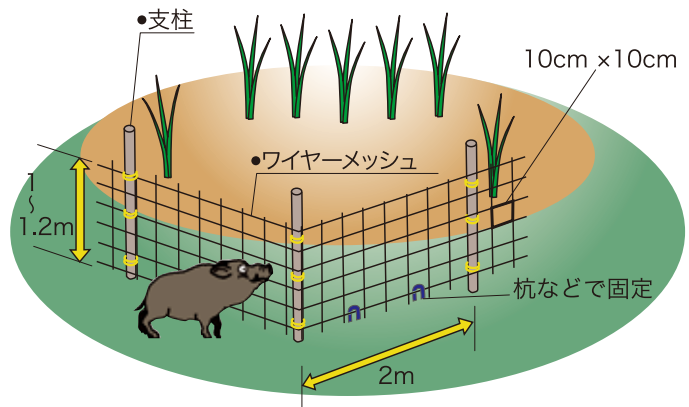
- 視覚を遮断する効果は高い。
- 1枚だけでは高さが不足するので、2枚継ぎ足しや他の資材との組合せで、高さ1.2m程度まで上げて、飛び越えられないようにする。
- 起伏のある場所では、地面とトタン板のすき間ができて、そこに鼻を突っ込まれ、トタン板を持ち上げられるので、凸凹があればよくならし、草など刈った後に設置する。
- トタン板同士の継ぎ目が破られやすいので、重なり部分は厚めにする。
- 押し倒されないように、支柱の強度と設置間隔にも注意する。



ワイヤーメッシュ

- ワイヤーメッシュは、丈夫な綱線を縦横に溶接した建築資材で、視覚的遮断効果は無いが、強度に優れた柵として利用できる。
- 綱線が細いと折り曲げられ、升目が大きいとウリボウに侵入される。10cm升目で太さ6mm程度のものを使用する。
- 飛び越えられないように十分な高さ（1～1.2m）を確保する。
- 押し倒されたり、鼻で持ち上げられたりしないように適当な間隔で頑丈な支柱を立てる。
- 地面と接する部分が弱点なので、くぐり抜けられないように支柱の間に2～3カ所、杭などで固定するか、竹などを地面に這わせてあてがい、結束して補強する。
- 上部30cmの部分を外側に20度折り曲げると、イノシシが接近しても乗り越えることはできない（右図）。

ワイヤーメッシュ柵の設置例

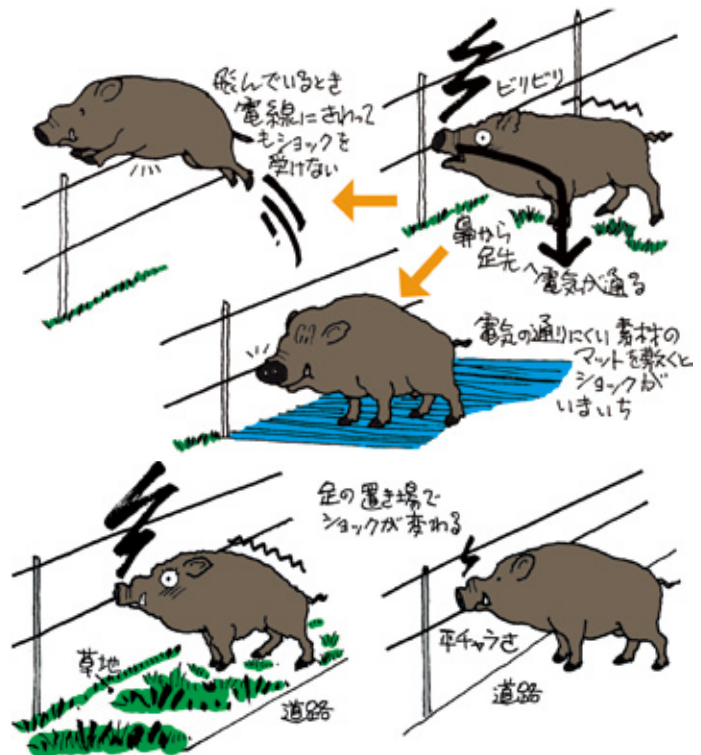


イノシシ用返し付きワイヤーメッシュ柵
(通称: 忍び返し柵)

イノシシを侵入させない②

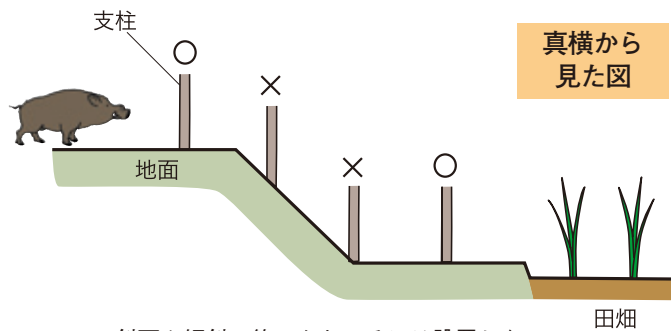
電気柵（ワイヤー式）

- 軽量で設置や収納が容易。
- 侵入防止効果が高く、何度も狙われている田畑にはお勧め。
- 背中などの毛皮部分は感電せず、鼻先だけがよく通電する。
- 必ず危険表示を行い、人の感電や火災の恐れがないように設置する。
- 前足が土の上になるよう最低50cmは舗装道路から離して設置する。
- 電線を張り巡らせる高さは、20cm（歩行中の鼻の高さ）、40cm（停止中の鼻の高さ）を基本とし、電気は常に流しておく。
- 支柱の押し倒しを防ぐため、支柱の外側に電線を張る。
- 周囲の草刈や通電の確認など、継続した管理を行い、電線の切断や漏電による効果低下に注意する。
- 除草のためといってゴムマットなど電気の通りにくい素材のマットは敷かない。
- 斜面や斜面の終わったところでは、勢いで突き破られることがある。部分的に資材を補強するか助走距離を短くするように電気柵の設置場所を変えてみる。
- 起伏のある場所では、地面と電線のすき間ができて、くぐり抜けられることがあるので部分的に支柱を追加し、20cm間隔を確保する。

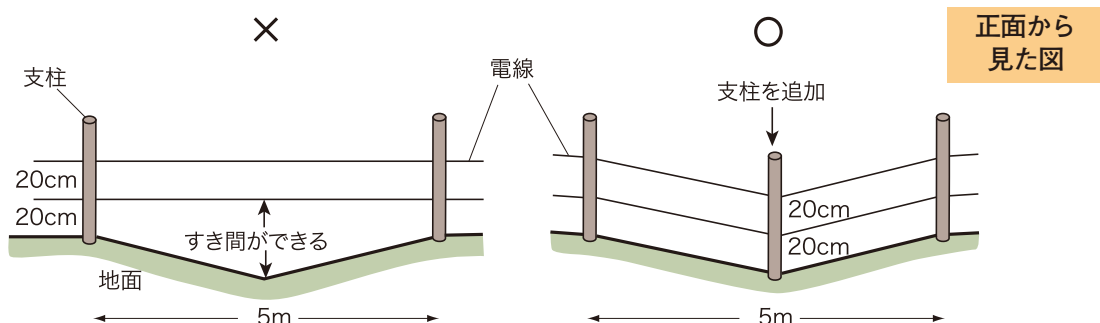


せっかくの電気柵もイノシシが地面に足を着けていないと効かない

電気柵の設置場所に注意しましょう！



斜面や傾斜の終わったところには設置しない



起伏のある所では、地面とのすき間ができないように設置する。

イノシシを侵入させない③

ネット類

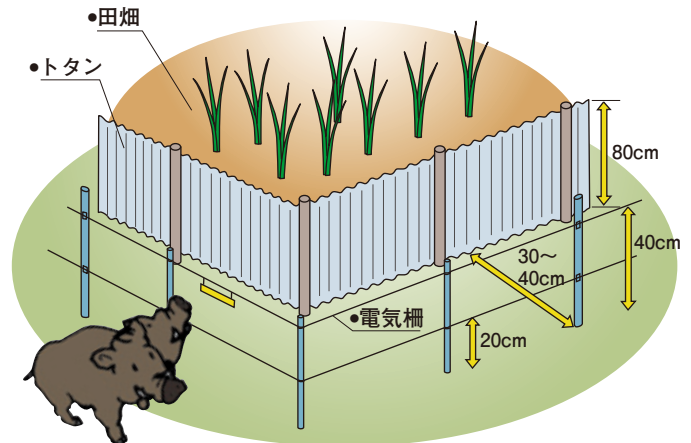
- 起伏のある場所や斜面の多い場所での設置が容易。
- 編み目を押し広げられたり、食い破られたりしないように目合いが10cm以上のものは避け、丈夫なものを選ぶ。
- くぐり抜けられないように接地面を折り返したり、杭などで固定する。
- イノシシの踏切位置は、柵などの障害物から20～40cmである。柵から手前に1mくらいの幅でネットを斜めに垂らすと、踏切位置が遠くなり、飛び越えを防止することができる。



イノシシの跳び込み防止には網をうまくつかう

トタン板+電気柵(ワイヤー式)

- 電気柵による侵入防止効果に加え、トタン板で視覚も遮断することにより設置効果が高い設備。
- トタン板をほ場側、電気柵はイノシシの侵入する側で、間隔を30～40cm程度離して設置する。
- 各資材を組み合わせる場合は、それぞれの弱点を補うようにするとよい。島根県では、畦波板+電気柵(ワイヤー式)も普及している。



トタン板で目隠しし、電気柵で踏み切りを遠くする

その他

- 忌避剤(木酢液、人間の毛髪、芳香剤など含む)
環境の変化に戸惑うだけで、臭いには必ず慣れるので、期間限定、一時的な嫌がらせとして使用する。
- 天敵(人間)
野生動物にとって一番怖いものは人間。最も防除効果が高いのは、これまでになかった人の活発な動き。
- 草刈り
草刈りで柵の周囲の見通しを良くし、隠れ場所をできるだけなくすことで、簡単な柵でも設置効果を上げることができる。



イノシシの唯一の天敵は人間



シカの生態と特徴

ニホンジカ（以下シカとする）は森林と草原との間を行き交う「林縁の生活者」であり、生息地が農林業生産の場と重なりやすく、被害を引き起こしやすい。被害を防止するためには、生態や特徴を正確に知り、集落内の生活痕跡は見逃さないことが重要である。

シカ被害の危険信号 !! フィールドサイン



足跡
4本指だが、跡は前指の2本のみ



糞
俵型の糞が多い



ヌタ場
角を木にこすりつけ

生態

- 草食性で植物はほとんど何でも食べる。冬期には、秋に草刈りをした道路わきや畦畔などに芽吹いた緑草を好んで食べる。
- 昼夜を問わず、2～3時間採食し、2～4時間反芻するリズムを繰り返す。
- 一定の地域に定着して生活する。
- メスは母系的な群れで、オスは単独またはオスだけの群れで行動する。
- 縄張り意識は低いが、強いオスは交尾期に縄張りを形成し、ハーレムをつくる。このオスは「フィヨー」という求愛の声を夕方から夜にかけてに数回発する。
- 交尾期は年1回で9～11月頃、出産期は5～6月頃。毎年1頭を出産する。野生での寿命は10～12歳程度。



特徴

- 警戒心が強いが、図太さも持ち合わせている。
- 昼間は森林域にいて、田畑には夜間に出てくることが多い。
- 蹄はあまり丈夫ではなく、足場の悪いところを嫌う。
- 視覚と聴覚は人間と大差ないが、嗅覚が発達していて、臭いで危険を察知する。「ピィッ」という警戒音を発して仲間に危険を知らせる。
- 2mの高さを飛び越えるほどの跳躍力を持っている。
- 柵の地際にすき間があれば、くぐり抜けることができる。

被害状況

- 主に食害で、食性の幅の広さから水稻、大豆、野菜、飼料作物などあらゆる農作物が対象となる。水稻では踏み荒らしも深刻。

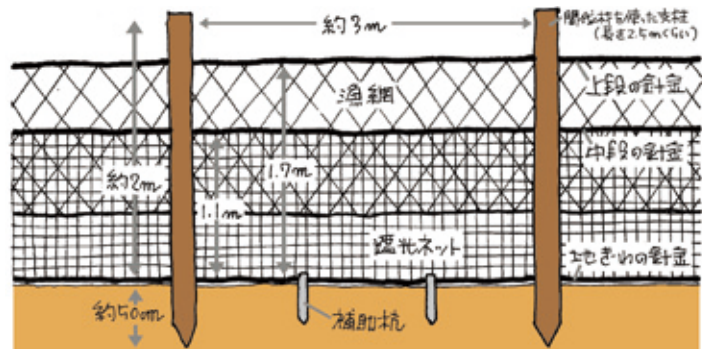
シカを侵入させない①

防護柵は隣近所に声をかけて共同で設置するのが効果的。防止効果が低下しないように草刈りや点検・補修はこまめに実施する。

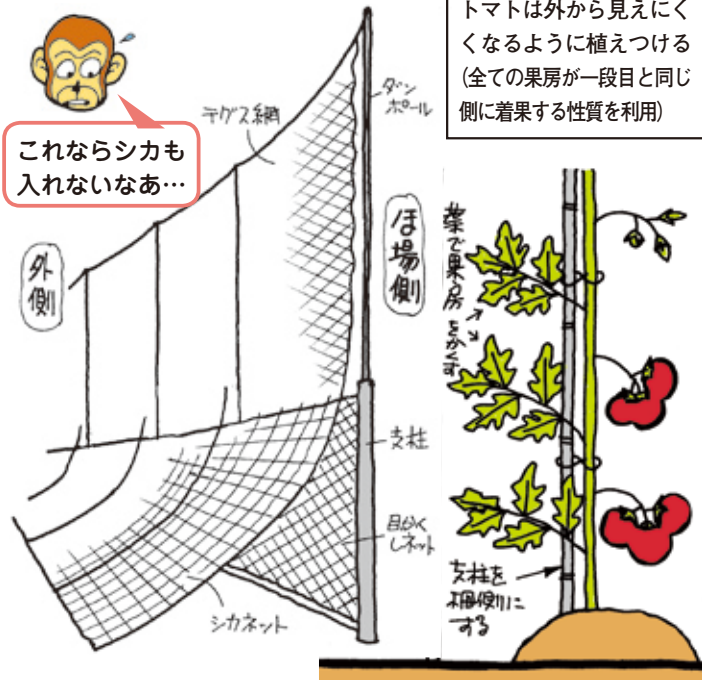
ネット柵

- 高さは2m程度とし、中古漁網、合成繊維ネット、遮光ネット（目隠し効果）などを使用する。
- 網の目を押し広げられたり、噛み切られたりしないように目合いが15cm以上のものは避け、丈夫なものを選ぶ。
- くぐり抜けられないように接地面を杭などで固定する。
- 中古漁網は塩分が付着しており、シカが好んで噛みやすいので注意する。
- 合成繊維ネットのステンレス線が編み込まれているものは噛み切られる心配がない。
- 遮光ネットの場合、視覚を遮断する効果もあるため、侵入防止効果は高いが、強風や風雪に弱いので、上部を風通しのよいネットにした組合せ柵にする。（上図）
- ネットを使った猿落君（p13参照）は、シカにも対応できる。（右図）
- 柵から手前に2mくらいの幅でネットを外に垂らすと、足が網に絡むのを嫌い、近寄らなくなる。垂らしたネットの裾に錘を付けると草で押し上げられることもなくなる。（下図）

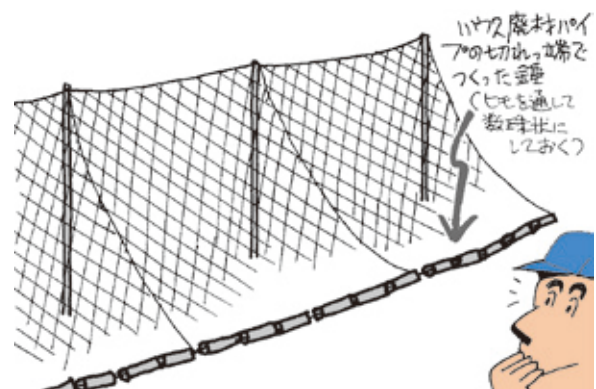
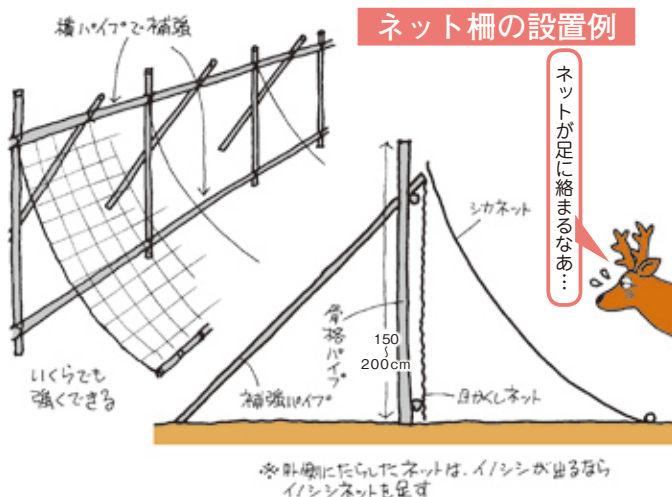
遮光ネット+漁網組合せ柵の設置例



猿落君の設置例



ネット柵の設置例

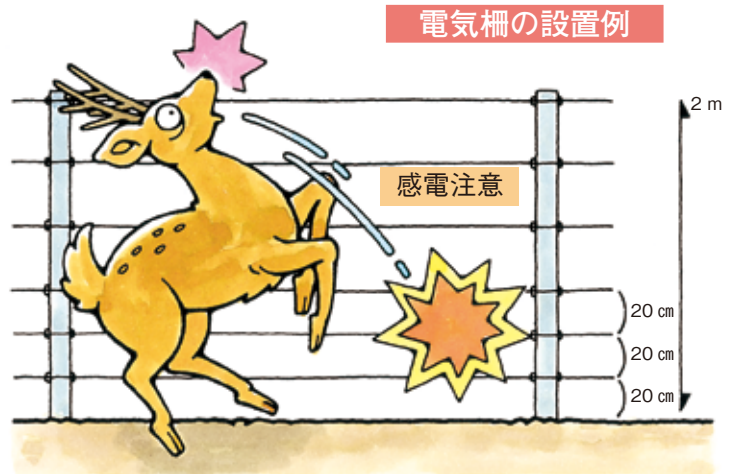


斜めにネットを垂らすとシカの飛び込み防止になる

シカを侵入させない②

電気柵

- イノシシにも対応する場合に適している。
- 必ず危険表示を行い、人の感電や火災のおそれがないように設置する。
- 前足が土の上になるよう舗装道路から最低 50 cm は離して設置する。
- 高さは 2 m 程度とし、くぐり抜けられないように、下 3 段の電線の間隔を 20 cm 程度とする。
- 起伏のある場所では、適宜支柱を追加し、地面と電線の間隔を 20 cm 程度に保つ。
- 周囲の草刈りや通電の確認など、継続した管理を行い、電線の切断や漏電による効果低下に注意する。



電気柵もシカが地面に足を着けていないと効かない

ワイヤーメッシュ柵

- ワイヤーメッシュの接合部は作物側に向け設置する。
- 飛び越えられないよう 2 m 程度の高さにする。
- 升目の大きさは 15 cm 以下（イノシシと兼用なら 10 cm 以下）で、目を広げられないよう接合部位が丈夫なものを選ぶ。
- 押し倒されないよう適当な間隔で丈夫な支柱を立てる。
- くぐり抜けられないよう完全に接地させ、支柱の間に杭などで補強する。



ワイヤーメッシュ柵（和気町）
農作物鳥獣害防止対策事業（県単独事業）



サルの生態と特徴

ニホンザル（以下サルとする）は学習能力が極めて高い動物である。どんなときに何をすれば農作物を守るのか知るためには、まず知恵比べの相手であるサルのことを知っておくこと。“まず柵ありき”は間違い。

生態

- 雑食で果実や虫などを好む。肉や魚は好んでは食べない。
- 活動時間は日中で、夜間は行動しない。
- エサを求め、群れで行動する。ある程度決まった独自の行動範囲の中で、周期的に移動する。
- 群れは、メスとそのコドモを中心に構成され、十数頭から百頭を超える。増え過ぎると分裂することがある。
- オスはオトナになると群れから離れ、別の群れに入ったり、離れザル（単独・オスの群れ）として生活をする。
- 交尾期は年1回で秋から冬、出産期は春から夏。2～3年に1頭の割合で出産するが、農作物を食べ、栄養状態が良いと1～2年で産むようになる。寿命は20歳程度。



群れを出たり入ったりするのが“離れザル”
オスは単独で行動することも

特徴

- 運動能力に優れ、木登り・ジャンプは大得意。
- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じ。
- 記憶力は抜群で、一度味わった恐怖体験は忘れない。ある出来事が起こった場所や状況も覚えている。
- 学習能力は高いが、習得するまでに時間がかかる。エサは慣れながら覚えていく。
- 土地への執着は深いが、群れ同士のバランスがくずれたり、環境に大きな変化があれば新しい土地に適応する柔軟さもある。
- 新しいものや状況、場所を警戒するが、いったん慣れると大胆に行動する。“人慣れ”が進むと追い払うのは難しくなる。
- 長距離を走るのは苦手で、安全な場所から離れることを嫌がる。
- 群れで行動するので、数頭が柵越えてきてエサに有り付けても他のサルが入れないとそのエサ場はあきらめる。

被害状況

- 主に果樹、野菜、水稻、大豆、イモ類が食害される。特に、春と秋に被害が多い。
- 群れで加害するので、短時間でも被害が大きくなる。
- コンニャク、トウガラシ、シソなど辛味や苦味のきつい農作物は好まない。

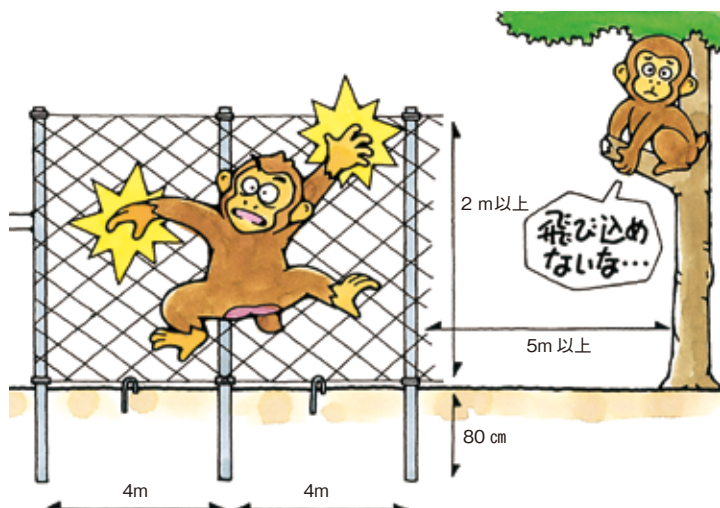
サルを侵入させない①

不完全だと思われる防護柵でもやらないよりはずっと良い。一人でも多くの人が設置すれば、それだけサルにとって魅力のない集落となる。

柵を設置したら①柵の外に収穫物を成らさない。②柵越しに収穫物を盗らせない。③周囲に踏み台となるもの（農機具・材木など）を置かない。

電気柵（ネット式）

- 必ず「サル用」のものを使う。
- 必ず危険表示を行い、感電や、火災のおそれがないように設置する。
- 高さは2m以上必要。飛び込みを防止するため、周囲の樹木や建物から5m以上離す。
- 周囲の草刈りや通電の確認など、継続した管理を行い、ネットの切断や漏電による効果低下に注意する。



接近警報（警戒）システム

- 群れで行動するオトナのメスザル（＝群れ）に電波発信機を装着することで、集落への接近を事前に把握でき、迅速かつ効率的な追い払いができる。
- システムの導入には、地域住民が主体となり、接近確認や追い払いなどの役割分担を明確にした体制をつくる必要がある。
- 広域的に導入し、複数の集落で情報を共有すれば、収穫日の調整や効率的な追い払いができる。
- 電波発信機には、電波法令等に適合しているものを使用し、装着には、サルの捕獲と麻酔使用が必要となるので、県知事の許可（学術研究目的）を得るほか、獣医資格者に協力を要請する。



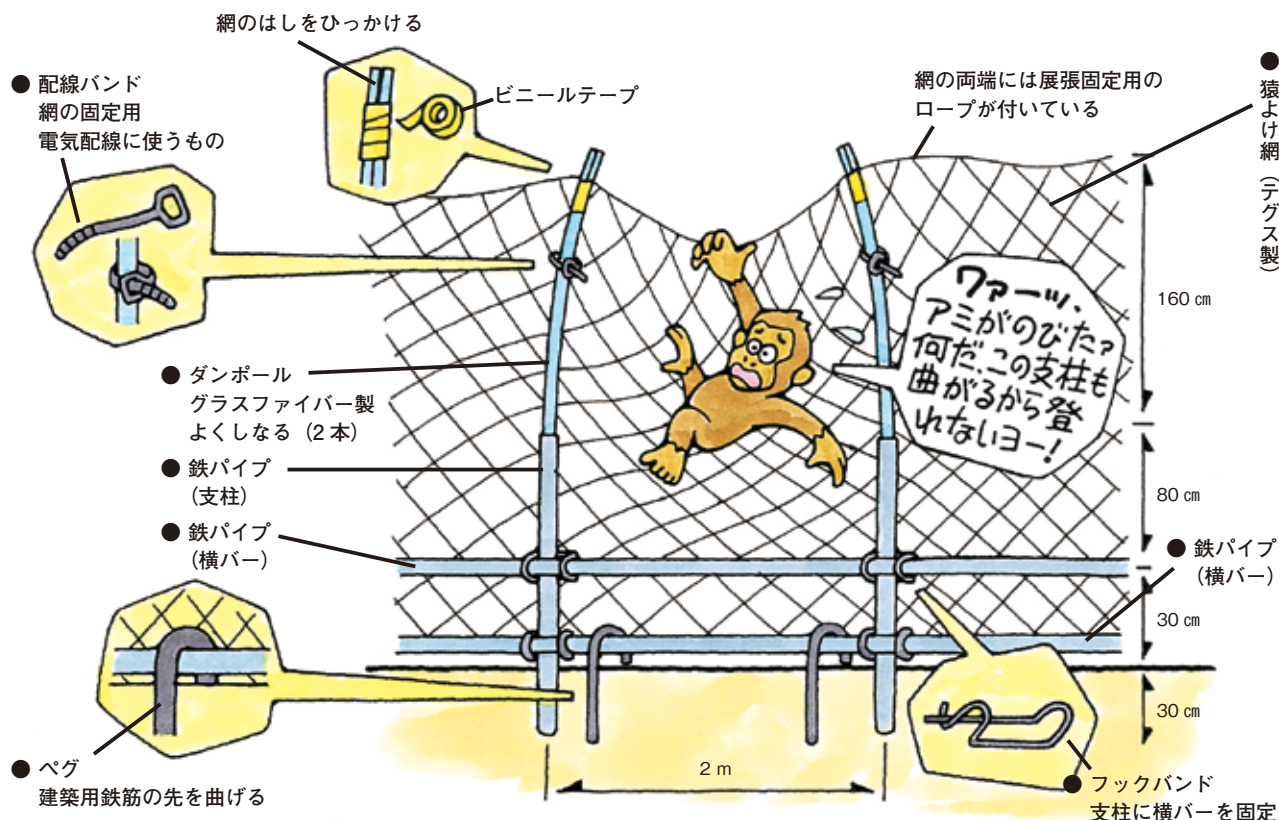
電波発信機を装着したサル（吉備中央町）



サルを侵入させない②

猿落君(えんらくくん)

奈良県果樹復興センターが開発した簡易猿害防止柵。弾力のあるダンポール(グラスファイバー製の支柱)に、テグス網を張った柵で、サルが登ると支柱が曲がって落ちる仕組み。脚立がいらす、高齢者でも設置が可能。



必要な資材 (100m分)

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| ■ 猿よけ網: 5~6巻 (テグス製、幅3m×長さ20m) | ■ ダンポール: 120本位 (径6.5mm、長さ2.7m) |
| ■ 支柱用鉄パイプ: 60本 (径19mm、長さ1.3~1.4m) | ■ 横バー用鉄パイプ: 40本 (径19mm、長さ5.5m) |
| ■ ペグ: 100本 (径10mm、長さ40cmの鉄筋を曲げる) | ■ フックバンド: 約200個 |
| ■ 配線バンド: 500本程度 | ■ ビニールテープ: 3巻 |

- 飛び込みを防止するため、周囲の樹木や建物から5m以上離して設置するのが望ましい。
- サルの出方、慣れに応じて、補修や工夫が簡単に行なえ、進化させることもできる。
- 上段の横バーの高さは、サルだけに対応する場合は30cm、イノシシやシカにも対応する場合は50~60cmにする。
- ビニールハウス等の廃材を活用すると安価に設置できる。

ここが大事!

サルの唯一の天敵は人間。侵入したところを脅かされるなど、怖い目に遭うことの多い集落は次第に避けるようになります。追い払いはあきらめずに集落全体で力を合わせ根気よく行うことが大切です。



カラスの生態と対策

農作物に被害をもたらすのはハシブトガラスとハシボソガラスの2種類で、鳥類の中では最も大きな被害をもたらす。エサが乏しい冬には、ゴミ捨て場の生ゴミをあさって飢えをしのごく。

生態

- 農作物全般を食害する。昆虫類をよく食べるほかザリガニやカエル、ネズミなどの死体や残飯なども食べる。
- 繁殖期は3～6月で、一羽が3～5個の卵を産む。
- 9月になると幼鳥は巣立つが、繁殖できるまでには生後2～3年以上かかる。
- 若ガラスも親ガラスも、それぞれ群れをなして集団で行動する。

カラスを侵入させない

無意識の餌づけをやめる

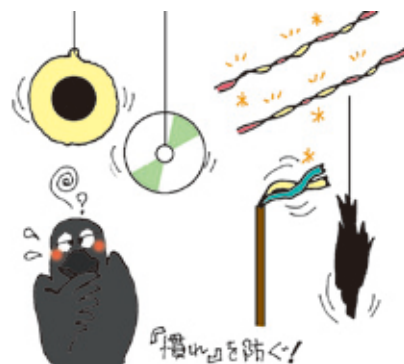
- エサへのこだわりがなく何でも食べるので、家のまわりや集落はエサの宝庫となる。生ゴミなどのエサを身のまわりからできるだけなくし、カラスが定着しにくい環境をつくる。

カラスの慣れを防ぐ

- 防鳥テープや爆音機、カラスの死体や模型などの方法は、時間とともにその効果は薄れる。色・音・光などを使った撃退グッズを複合的に組み合わせる、効かなくなったら片付けるなど、いつまでも放置しないこと。

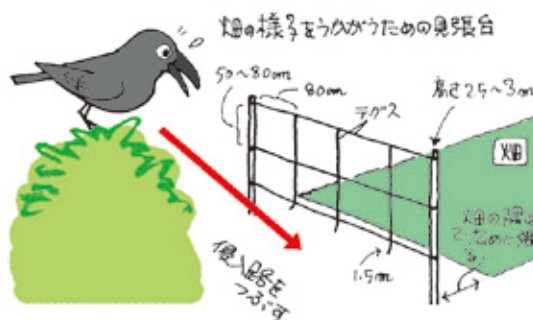
防鳥網で防ぐ

- たるませない、すき間をつくらない、作物から離すといった点に注意し設置する。



侵入路をつぶす！

カラスは畑の作物を狙う際に、様子をうかがう見張台のような高い所にいったん止まり、安全かどうか確認してから侵入します。そこで、その見張台になりそうなところからの進入路をつぶすように「テグス」を張る、といった工夫も効果的です。





ヌートリアの生態と対策

原産は南アメリカで、戦時中は軍服用などの毛皮獣として、各地で盛んに養殖されたヌートリア。当時養殖されていたものが野外に放逐され、主に西日本に定着したといわれている。ネズミの仲間で、眼や耳は小さく大きなドブネズミのような体つきをしている。

生態

- 主にヨシやマコモなどの水生植物や二枚貝を採食。
- 水路沿いに移動するため、イネの食害が最も多く、野菜も食べる。
- 泳ぎは巧みだが、陸上での動作は鈍い。
- 陸上では主に水際を移動し、水辺から離れての行動範囲はあまり広くないと思われる。
- 本来は夜行性だが、昼間でも活動がよく見られる。
- 冬眠はせず、春になると動きが活発になり、主に家族単位で生活する。
- 池沼や河川の中・下流域の流れの緩やかな場所周辺に巣穴を作って繁殖。
- 特定の繁殖期はなく、年に2～3回出産、平均5～7頭を産む。

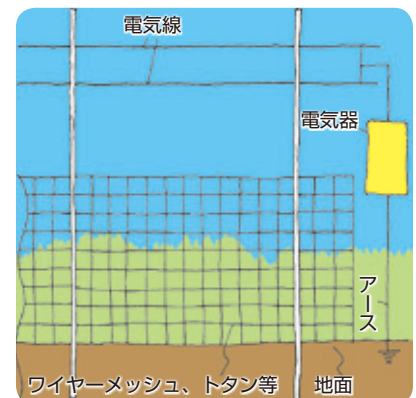
ヌートリアを侵入させない

水辺近くにエサを放置しない

- 田畑周辺にエサとなるものがあると寄ってくる。農作物は残さずに早めに収穫する。特に活動範囲になりやすい水辺周辺にエサとなるものを放置しないことが重要。

侵入防止柵の設置が有効

- ネットや金網、プラスチック製波板、トタン板などを用いた侵入防止柵を1m程度の高さで耕作地を囲う。柵の下に穴を掘って侵入することもあるため、柵は地面に30cmほど埋め込むとよい。電気柵との組み合わせで更に効果が上がる。



ネット柵等と電気柵を組み合わせると効果アップ

営巣場所や隠れ場所をつくらない

- 耕作放棄されヨシ原となったような田んぼは営巣場所となりやすいため、田んぼや水路周辺の草を刈払って見通しを良くし、隠れ場所や侵入ルートを少なくする。

中型獣

こんなサインに注意

足跡だけでは獣種を特定できないことが多いので、他の痕跡とあわせて総合的に判断すること。

ハクビシン



指5本で短い

タヌキ



指4本で犬に似ている

アナグマ



指が短く、爪が長い

ヌートリア（後足）



4本指。カモに似た水かきと爪がある



アライグマの生態と対策

カナダ南部から中央アメリカに分布するアライグマ科の哺乳動物。日本へはペットとして入ってきたものが野生化し分布域を広げている。しっぽのしま模様が他の動物と見分ける際の大きなポイントになる。今後、急激な増加が心配されるので要注意！

生態

- 小型哺乳類、鳥類、両生類、魚類、昆虫、農作物など、なんでも食べる雑食性で、しかも大食漢。
- 夜行性で、日中は、高い樹上や家屋の屋根裏などのねぐらで休む。5本指の爪を立て、木や柱、壁を登るのが非常に得意。小川や用水、側溝などを歩いて移動する。
- 人に慣れることもあるが爪や歯がすどく、人を攻撃することもあるので注意が必要。
- 成長が早く、1歳になるとメスは繁殖が可能となる。3月下旬から5月上旬にかけて、1～6頭の子供を産む。野生の個体の寿命は7～8年といわれている。



アライグマを侵入させない

エサを与えない

- 作物を食べさせないように、防護柵等でしっかり防護する。
- 生ゴミを畑に不用意に捨てたり、廃棄する作物を畑に野積みにして放置しない。
- 収穫する予定のない果実は早期に摘果するか、伐採できる場合は伐採する。

ねぐらをつくらせない

- アライグマの侵入口になりそうな壁や床下、屋根の近くの隙間はふさぐ。特に、神社などの古い木造建築は、ねぐらや繁殖場所に使われやすいので注意が必要である。

捕獲する

- 繁殖力が強いアライグマは、箱わなを使い積極的に捕獲する。



「特定外来生物」の捕獲

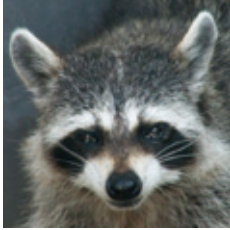
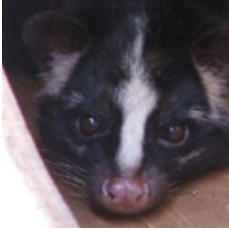
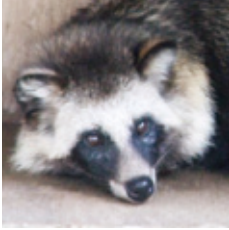
アライグマやヌートリアは、農林業や生態系に大きな影響を与えることから「外来生物法^{*}」(平成17年施行)に基づいて、「特定外来生物」に指定されており、防除実施計画を策定し、国の確認・認定を受けることにより、特定の講習を受けた者も捕獲を行うことができる。

外来生物法と鳥獣保護法のちがい

	外来生物法に基づく 〔確認・認定〕	鳥獣保護法に基づく 〔捕獲許可〕
捕獲数量 期間	● 複数年の計画期間で、捕獲数量の上限を設ける必要なし	● 捕獲数量を決めて申請
捕獲個体 の取扱	● 生きている捕獲個体の運搬等を伴う防除が可能	● 捕獲現場での殺処分又は地方公共団体職員等への引渡し

※「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」

ここで見分けよう！ 夜行性4獣種

	外来種		在来種	
	特定外来生物 アライグマ	ハクビシン	タヌキ	アナグマ
顔	 耳の縁とヒゲが白い。	 顔の真ん中、鼻から額にかけて白い帯があり、「白鼻芯」の名の由来となっている。	 耳の縁とヒゲが黒い。	 顔が細長い。耳が小さい。
全体像	  尾に黒いシマがある。	  尾が細く長い。	  尾にシマがない。	  尾が短く、シマはない。
足裏	指が長い   5本指	指は短い   5本指	4本の指は短い(イヌと同じ)   4本指	指が短く、爪が長い   5本指

アライグマが残した足跡のいろいろ

長い指の足跡をくっきりと残すのが特徴です。



田んぼで



家屋のガラス戸で



畑で



スイカは穴をあけ、中に手をつっこんで食べる



有害鳥獣を捕獲する

捕獲による個体数調整も農作物被害対策の一つである。

被害防止のための捕獲には、有害鳥獣捕獲と狩猟の2つがある。被害者（農家）、市町村、駆除班がよく連携・協力して実施することが重要。

- 集落内で被害を及ぼしているイノシシ、シカ、サルを確実に捕獲した方が効果的。（下図）
- 被害を受けたら、現場の状況だけでなく、田畑の周辺で見つけた生活痕跡や「けもの道」などの有効な情報を整理し、駆除班員や狩猟者に伝え、効率的な捕獲を。
- 集落で捕獲柵を購入し、狩猟免許取得者（＝狩猟登録者）に設置・管理を委託して捕獲する取り組みも増えている。



捕獲柵（新見市）
有害獣捕獲柵設置補助（県単独事業）

ここが大事！

鳥獣の捕獲には、自らの被害防止のためであっても、狩猟免許の取得等の手続きが必要です。

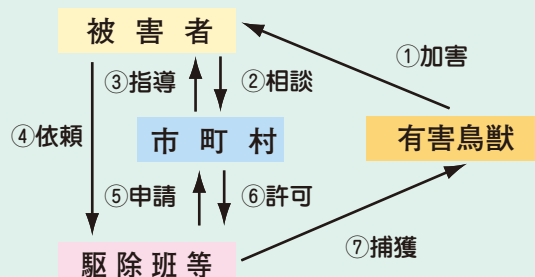
山奥のイノシシもたくさん捕るよりも、畑周辺のイノシシも1頭つかまえるほうが効果的。

コイツを捕まえるぞ

有害鳥獣捕獲許可による捕獲

- 有害鳥獣捕獲は、柵などで防止したり、追い払ったりしても効果がなく、イノシシやシカなどにより農作物が深刻な被害を受けたとき、市町村の許可を受けて駆除班等が捕獲する制度。
- 法律等で捕獲が禁止されている場所や期間であっても、許可を受けることにより、捕獲が可能となる。
- 被害を受け、捕獲が必要な場合は、市町村役場に相談する。

有害鳥獣捕獲の流れ



狩猟による捕獲

- 近年、被害を受けた農家が狩猟免許を取得し、自ら捕獲に取り組む事例も増えている。
- イノシシやシカなど野生鳥獣を捕獲するには、狩猟免許が必要。実際に狩猟を行うには、狩猟者登録も必要となる。さらに、銃を使用する場合は、警察から所持許可を受けなければならない。
- 農家自らがイノシシやシカを狩猟する場合は、「わな猟免許」が比較的取得しやすい。
- 県では狩猟免許試験を毎年7～8月頃に実施している。
- 狩猟免許は全国で通用し、有効期間は3年間であるが、更新できる。
- 20歳に満たない者などは、狩猟免許試験を受けることができない。
- 狩猟や免許取得については、最寄りの県民局農林水産事業部森林企画課に相談する。
- 狩猟期間は、11月15日から翌年2月15日までであるが、岡山県内では、イノシシとシカに限り3月15日まで延長されている。
- サルは狩猟鳥獣ではないため、有害鳥獣捕獲に限られる。(P18参照)
- イノシシやシカは狩猟鳥獣であるが、鳥獣保護区や休猟区、公道、自然公園特別保護地区、区域が明示された都市公園等、社寺境内及び墓地などでは狩猟が禁止されている。

捕獲物の処理

- 捕獲したイノシシやシカは、原則として持ち帰る。やむを得ない場合は、埋設など適切に処理し、山野に放置しないこと。

狩猟免許の種類

- ◇ 網猟免許
むそう網、はり網等
- ◇ わな猟免許
囲いわな、箱わな、くくりわな等
- ◇ 第一種銃猟免許
散弾銃、ライフル銃、空気銃
- ◇ 第二種銃猟免許
空気銃

狩猟免許の取得

① 狩猟免許申請

必要書類に講習料と試験手数料を添えて最寄りの県民局農林水産事業部森林企画課へ申請する。(県猟友会を通じて申請することもできる)



② 県猟友会による講習会(1日)

講習を受けなくても狩猟免許試験を受けることができるが、受けておいた方が合格への近道。



③ 狩猟免許試験(1日)

適性試験・知識試験・技能試験がある。



④ 狩猟免許試験合格



⑤ 狩猟者登録

狩猟免許を持っているだけでは狩猟はできないので、狩猟をしたい場所の都道府県知事に登録料を添えて狩猟者登録を申請する。



⑥ 狩猟

狩猟期間内に、狩猟鳥獣を狩猟が禁止されていない場所で定められた方法により捕獲できる。



獣害防除の十カ条

心がまえ

その一 相手を知る！

その二 当事者になる！

その三 集落で共通意識を持つ！

その四 噂は噂にすぎない！

その五 あきらめない！

対策

その六 集落に入れさせない！

その七 隠れ場所・休息場所・繁殖場所を与えない！

その八 防除柵を過信しない！

その九 動物は音・光・臭いに慣れる！

その十 効率的な駆除！

「山の二〇頭より田畑の二頭」！



問い合わせ先

詳しくは、最寄りの県民局農林水産事業部（農畜産物生産課¹⁾・農業普及指導センター¹⁾・森林企画課²⁾）または、農林水産総合センター¹⁾、県担当課（農村振興課¹⁾・自然環境課²⁾）へお問い合わせ下さい。

備前県民局農林水産事業部	TEL 086-233-9827 (直)	岡山市北区弓之町6-1
備中県民局農林水産事業部	TEL 086-434-7032 (直)	倉敷市羽島1083
美作県民局農林水産事業部	TEL 0868-23-1305 (直)	津山市山下53
農林水産総合センター普及連携部普及推進課	TEL 086-955-0274 (直)	赤磐市神田沖1174-1
農林水産部農村振興課(被害防止)	TEL 086-226-7439 (直)	岡山市北区内山下2-4-6
環境文化部自然環境課(狩猟)	TEL 086-226-7310 (直)	岡山市北区内山下2-4-6

※¹⁾は被害防止対策、²⁾は捕獲制度の問い合わせ先

本冊子の内容は、農村振興課のホームページ(<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/55/>)に掲載しています。

■企画・発行 岡山県 ■制作 社団法人 農山漁村文化協会 ■発行年月 平成 25 年 3 月

■写真提供 奈良県果樹復興センター 島根県中山間地域研究センター 大井徹 岡山県

■イラスト トミタ・イチロー 小島義昭

■参考文献 江口祐輔「イノシシから田畑を守る」農文協 井上雅央・金森弘樹『山と田畑をシカから守る』農文協
井上雅央『山の畑をサルから守る』農文協 江口祐輔（編著）『鳥獣害対策の手引 2002』日本植物防疫協会
雑誌『月刊 現代農業』農文協

※ 複製・転載する場合は必ず岡山県及び制作者（農山漁村文化協会）の許諾を得て下さい。

この冊子は再生紙を使用しています。